

A Low Ankle Brachial Index is Associated with an Increased Risk of Cardiovascular Disease: The Hisayama Study

小嶋, 巖

<https://doi.org/10.15017/2534521>

出版情報 : Kyushu University, 2019, 博士 (医学), 論文博士
バージョン :
権利関係 :

氏 名：小嶋 巖

論 文 名：A Low Ankle Brachial Index is Associated with an Increased Risk of
Cardiovascular Disease: The Hisayama Study

(足関節上腕間血圧比(ABI)低値は心血管病の発症リスク上昇と関係する：
久山町研究)

区 分：乙

論 文 内 容 の 要 旨

足関節上腕間血圧比 (Ankle Brachial Index, ABI) 低値は、下肢末梢動脈疾患の指標であり、心血管病発症の危険因子であることが知られている。しかしながらアジア人を対象として ABI 低値と心血管病の関係を前向きに検討した疫学研究は少ない。本研究では日本人一般住民を対象として ABI と心血管病発症の関係を追跡研究の手法で検討した。

対象は、2002年に福岡県久山町の循環器健診において ABI を測定した、心血管病の既往歴のない 40 歳以上の一般住民 2,954 人とした。これらの対象者を ABI 値により低値群 (≤ 0.90)、境界値群 (0.91-0.99)、正常値群 (1.00-1.40) の 3 群に分類し、7 年間追跡した。ABI と心血管病との関係は、Cox 比例ハザードモデルを用いて解析した。年齢、性別、収縮期血圧、降圧薬服用、糖尿病、総コレステロール、HDL コレステロール、肥満、喫煙、飲酒、運動習慣にて多変量調整を行った。

追跡期間中に 134 人が心血管病を発症した。ABI 値の低下にともない心血管病の発症率は有意に増加した (傾向性 P 値 < 0.001)。ABI 正常値群を基準として、ABI 低値群における心血管病発症のハザード比 (多変量調整後) は 2.40 (95%信頼区間: 1.14-5.06) と有意に上昇した。病型別の検討では、ABI 低値群は、正常値群に比べ冠動脈疾患発症リスクが有意に高かった (ハザード比 4.13 [95%信頼区間: 1.62-10.55])。ABI と脳卒中発症の間に有意な関連を認めなかった ($P=0.68$)。

以上の成績より、わが国の地域住民において、ABI 値 0.9 以下の低下は、既知の危険因子とは独立して、心血管病、特に冠動脈疾患の発症リスクが上昇することが示唆された。